

(様式6)

高橋 裕子 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Comparison of effects of joint flexibility on the lumbo-pelvic rhythm in healthy university students while bending the trunk forward
(健全大学生における体幹前屈運動中の腰椎骨盤リズムへ関節可動性が与える影響の比較)
Journal of Physical Therapy Science (in press)
Yuko Takahashi, Takehiko Yamaji

論文の要旨及び判定理由

体幹前屈運動において観察される腰椎骨盤リズムは、隣接する腰椎と股関節の柔軟性の違いによって各関節運動範囲が効率的に選択され、この腰椎骨盤リズムは腰痛の有無や関節柔軟性などによって影響されると考えられる。本研究は、健全大学生47名を対象に、体幹前屈運動中の腰椎骨盤リズムにおける腰椎と股関節の関節運動と、腰腸筋および大腿二頭筋の筋活動を、柔軟性の正常群と低下群で比較した。柔軟性正常群に比して低下群で体幹前屈運動中の股関節屈曲運動の割合が有意に低く、特に運動の後半でその傾向は顕著であった。体幹前屈運動時に生じる筋活動の消失現象である屈曲弛緩反応が出現した股関節屈曲角度は、大腿二頭筋において柔軟性正常群に比して低下群で有意に低値であった。本研究は柔軟性が低下した対象における腰椎骨盤リズムの正常からの逸脱を明らかにし、腰痛予防における腰椎骨盤リズムの評価の意義を検証した研究であり、リハビリテーション学分野での重要な研究と認められ、博士（保健学）の学位に値するものと判定した。

(令和2年2月5日)

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	臼 田 滋 印
副査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	坂 本 雅 昭 印
副査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	李 範 爽 印

参考論文

1. Relationship between asymmetric trunk flexion movement and elector spinae muscle activity

(非対称的体幹屈曲運動と脊柱起立筋の筋活動の関係性)

Journal of Physical Therapy Science 30: 755-775, 2018.

Takahashi Y, Yamaji T